



Cisco TelePresence Server 4.4 (1.30)

リリース ノート

初版発行：2019 年 11 月

製品に関する資料

次のサイトには、製品のインストール、初期構成、および操作に関するドキュメントが含まれています。

- リリース ノート：http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/prod_release_notes_list.html
- インストール ガイド：http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/prod_installation_guides_list.html
- コンフィギュレーション ガイド：http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/products_installation_and_configuration_guides_list.html
- API リファレンス ガイド：
http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/products_programming_reference_guides_list.html
- メンテナンスおよび操作ガイド：http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/prod_maintenance_guides_list.html
- ライセンス情報：http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/products_licensing_information_listing.html

4.4 の新機能 (1.30)

TelePresence Server バージョン 4.4 (1.30) はメンテナンス リリースです。

4.4 (1.29) の新機能

TelePresence Server バージョン 4.4 (1.29) はメンテナンス リリースです。

4.4 (1.28) の新機能

TelePresence Server バージョン 4.4 (1.28) はメンテナンス リリースです。

4.4 (1.24) の新機能

TelePresence Server バージョン 4.4 (1.24) はメンテナンス リリースです。

バージョン 4.4 (1.20) の新機能

バージョン 4.4 (1.20) はメンテナンス リリースです。詳細については、「[解決済みおよび未解決の問題 \(6 ページ\)](#)」を参照してください。また、次の新機能と変更点についても説明します。

バージョン 4.4 (1.16) の新機能

表 1 バージョン 4.4 (1.20) の TelePresence Server プラットフォームによる新機能のサポート

| 機能名 | 7010 & MSE 8710 | メディア 310/320 | 仮想マシン | メディア 820 |
|-----------------------------|-----------------|--------------|-------|----------|
| TLS/DTLS バージョンの最小変更 (2 ページ) | ○ | ○ | ○ | ○ |
| H.323 削除可能 (8710 のみ) | ○ | x | x | x |

TLS/DTLS バージョンの最小変更

TLS バージョン 1.0 および 1.1 は、より広範なセキュリティ コミュニティによってセキュリティ保護されていないため、すべての暗号化セッションで TLS 1.2 以降が推奨されるようになりました。以前の TelePresence Server バージョン 4.4 (1.16) ですべての TLS バージョンがサポートされていたため、推奨する TLS バージョンを適用できませんでした。

したがって、このレベルのセキュリティを必要とするユーザをサポートするために、TLS と DTLS の最小バージョンがデフォルトで 1.2 に設定されるようになりました。必要に応じて (通常は従来の機器との互換性を保つために)、Web ユーザ インターフェイスの [ネットワーク設定 (Network Settings)] ページの新しいドロップダウン オプションを使用して、TLS および DTLS の最小バージョンを手動で 1.0 に設定し直すことができます。アップグレードする前に、TelePresence Server に接続する必要があるすべてのブラウザおよびその他の機器が TLS 1.2 をサポートしていることを確認します (詳細については、「4.4 (1.30) へのアップグレード (11 ページ)」を参照してください)。

注: 現在 CTS、TX9000、および ix5000 エンドポイントは DTLS 1.2 をサポートしていません。DTLS 1.2 が TelePresence Server に適用されている場合、メディアは暗号化されず、ロビー画面に入るときにビデオが表示されない場合があります。これらのエンドポイントでセキュアモードを使用する場合は、DTLS 1.0/1.1 を許可するようにテレプレゼンス サーバを設定することを推奨します。

通常の展開では、テレプレゼンス サーバとエンドポイントは VCS または CUCM を介して接続されます。ただし、CE 9 ソフトウェアを使用して TelePresence Server と Cisco エンドポイント間で直接 SIP TLS 1.2 コールを使用する場合は、エンドポイント設定で SIP のセルフ証明書オプションを必ず有効にしてください。これが有効になっていない場合、エンドポイントは匿名の暗号のみを提供し、TLS 1.2 を使用して TelePresence Server に接続することはできません。

H.323 削除可能 (8710 のみ)

H.323 プロトコルのサポートは、4.4 (1.20) の 8710 から削除されます。(他のプラットフォームでは、H.323 プロトコルがサポートされたことはありません。)

H.323 プロトコルは、SIP の代替手段として使用されます。その他の Cisco 製品は H.323 と SIP をインターワークできるため、ほとんどの導入では不要になりました。これは、H.323 をサポートするためのソフトウェアメモリ要件として 8710 プラットフォームの安定性を向上させるために削除され、「メモリ不足」の問題が発生する可能性があります。

展開で H.323 サポートが引き続き必要な場合は、4.4 (1.20) にアップグレードしないでください。

VMware ESXi 6.5 のサポート

Telepresence Server が ESXi 6.5 をサポートするようになりました。

バージョン 4.4 (1.16) の新機能

バージョン 4.4 (1.16) は、次の新機能も導入したメンテナンス リリースでした。

表 2 バージョン 4.4 (1.16) の TelePresence Server プラットフォームによる新機能のサポート

| 機能名 | 7010 & MSE 8710 | メディア 310/320 | 仮想マシン | メディア 820 |
|--------------------------|-----------------|--------------|-------|----------|
| コンテンツ チャネルの機能強化, (2 ページ) | ○ | ○ | ○ | ○ |

コンテンツ チャネルの機能強化

このリリースでは、コンテンツ チャネルの送信プロファイルを制御する新しい API パラメータ mediaTxShaping が導入されました。

バージョン 4.4 (1.9) の新機能

詳細については、http://www.cisco.com/en/US/products/ps11339/products_programming_reference_guides_list.htmlにあるバージョン 4.4 (1.16) API ガイドを参照してください。

バージョン 4.4 (1.9) で導入された新機能

バージョン 4.4 (1.9) では、会議エクスペリエンスを拡張および改善する新機能がいくつか導入されました。このリリースは、すべての TelePresence Server プラットフォームで使用できます。

これらの新機能をサポートするために、必要に応じてユーザ インターフェイスと API が更新されました。

表 3 バージョン 4.4 (1.9) の TelePresence Server プラットフォームによる新機能のサポート

| 機能名 | 7010 & MSE 8710 | メディア 310/320 | 仮想マシン | メディア 820 |
|--|-----------------|--------------|-------|----------|
| 仮想マシンの Cisco TelePresence Server | | | | |
| TelePresence Server 用の新しいプラットフォーム — Cisco Meeting Server 1000 、3 ページ | x | x | o | x |
| Webex 用仮想マシン上の Cisco TelePresence Server での SIP URI 拡張 (3 ページ) | x | x | o | x |
| ユーザ エクスペリエンスの向上 | | | | |
| ミーティング通知への参加/脱退 (4 ページ) | Yes | o | o | o |
| アクティブなスピーカーの通知 (4 ページ) | o | o | o | o |
| OnePlusN 画面レイアウトファミリ (4 ページ) | o | o | o | o |
| Audio アバターの向上 (5 ページ) | o | o | o | o |

仮想マシンの Cisco TelePresence Server

TelePresence Server 用の新しいプラットフォーム — Cisco Meeting Server 1000

このリリースでは、TelePresence Server ソフトウェアの新しいプラットフォームが導入されました。Cisco Meeting Server 1000 (CMS 1000) 4.4 (1.9) は、このプラットフォームをサポートする最初のリリースです。これにより、720p30 ビデオ + 720p5 コンテンツで 84 個の HD ポートのポート容量が増加します。このポート容量の増加構成 (70 ハイパースレッド コア Cisco TelePresence Server) は、OVF テンプレートの展開ウィザードの設定ダイアログで有効化されます。最新版『Cisco TelePresence Server on Virtual Machine Installation Guide』の「Deploying OVA to Host」セクションを参照してください (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/telepresence-server/products-installation-guides-list.html>)。

注: 最大ポート容量を実現するには、仮想マシン上の Cisco TelePresence サーバが Cisco Meeting Server 1000 上の唯一の VM である必要があります。他の UC アプリケーションと共存することはできません。

注: Cisco Meeting Server 1000 には ESXi 6.0 および仮想マシンのバージョン 11 が必要です。

WebEx 用の仮想マシン上の Cisco TelePresence サーバでの SIP URI 拡張

仮想マシン上の Cisco TelePresence Server は、最大 1024 文字の SIP URI を処理できるようになりました。以前のリリースでは、この文字数制限は 80 文字でした。他のすべての TelePresence Server 用のプラットフォームでは、制限は 80 文字のままであることを注意してください。

ユーザ エクスペリエンスの向上

このリリースでは、次のユーザ エクスペリエンスの向上が機能します。

ージョン 4.4 (1.9) の新機能

ミーティング通知への参加/脱退

このリリースでは、誰かがビデオ会議に参加または退室したときに、音声通知が導入されます。以前は、特にビデオレイアウトに新しい参加者が到着するのを見ることができないオーディオ参加者に、誰かが参加していたことは必ずしも明らかではありませんでした。

通知は、API を介して会議レベルで構成できます。デフォルトでは、通知は再生されません。参加通知と脱退通知を個別に有効にすることができます。この機能は、会議テンプレートのコンダクタの詳細パラメータを使用して TelePresence コンダクタでのみ設定できます。

API を使用して会議でオーディオ通知を再生できるようにするには、次の手順に従います。

1. TelePresence Conductor で、[会議構成 (Conference Configuration)] > [会議のテンプレート (Conference Templates)] に移動し、会議のテンプレートを見つけます。
2. [高度なパラメータ (Advanced Parameters)] に移動し、[編集 (Edit)] をクリックします。
3. [カスタムパラメータ (Custom parameters)] テキストボックスに、次のテキストを入力します。
"audioJoinNotification":"all","audioLeaveNotification":"all"
4. [保存 (Save)] をクリックします。

これらのパラメータは flex.conference.create または flex.conference.modify に入り、TelePresence Server の flex.conference.query で報告されます。

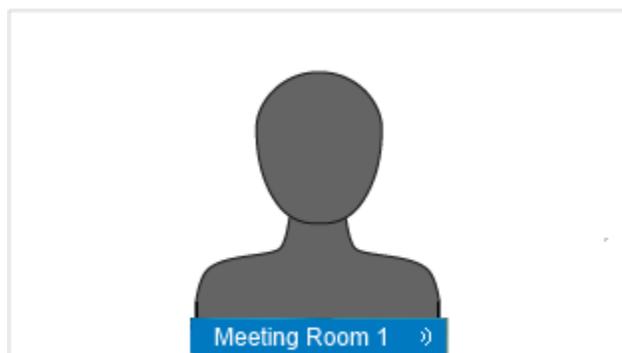
他の Flex API コントローラには、会議の作成時または進行中の会議の変更時にこれらのパラメータを含めることができます。詳細については『Cisco TelePresence Server API 4.4 Reference Guide』を参照してください。

アクティブなスピーカーの通知

このリリースでは、新しいアクティブスピーカー通知が導入されています。

- アクティブなスピーカーの名前ラベルは灰色で、アニメーションなしで青色になりました。
- 「波パルス」アイコンは青で、アニメーションなしで白になりました

図 1 新しいアクティブスピーカー ラベル



OnePlusN レイアウト ファミリ

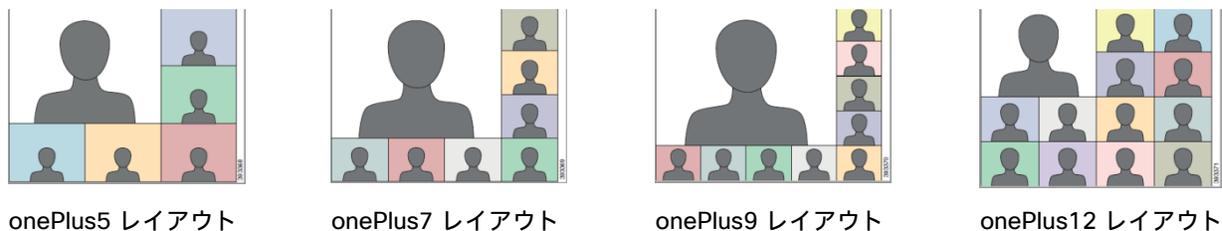
このリリースでは、新しい OnePlusN レイアウト ファミリが導入されています。この新しいレイアウト ファミリは、指揮者の詳細パラメータを使用して管理者がデフォルトとして設定できます。DTMF 2 または 8 を使用して、すべてのレイアウト ファミリを循環する会議参加者が選択できます。また、Flex API を使用して会議のデフォルトのシングル スクリーン レイアウトとして設定することもできます。

レイアウトは「シングル」として開始され、次のように参加者数に基づいて自動的に onePlus5、onePlus7、onePlus9、および onePlus12 に拡張されます。

変更およびマイナーな機能強化

- 参加者が 2 名の場合は全画面表示
- 参加者が 3 人、4 人、5 人、6 人、または 7 人の場合は onePlus5
- 参加者が 8 人または 9 人の場合は onePlus7
- 参加者が 10 人または 11 人の場合は onePlus9
- 参加者が 11人以上の場合は onePlus12

図 2 OnePlusN ファミリのレイアウト



API を使用してこのレイアウト ファミリーを会議のデフォルト単一画面レイアウトとして設定するには、次の手順を実行します。

1. **TelePresence Conductor** で、**[会議構成 (Conference Configuration)]** > **[会議のテンプレート (Conference Templates)]** に移動し、会議のテンプレートを見つけます。
2. **[高度なパラメータ (Advanced Parameters)]** に移動し、**[編集 (Edit)]** をクリックします。
3. **[カスタムパラメータ (Custom parameters)]** テキスト ボックスに、次のテキストを入力します。

```
{"callAttributes": {"displayDefaultLayoutSingleScreen": "LayoutOnePlusN"}}
```
4. **[保存 (Save)]** をクリックします。

Audio アバターの向上

このリリースでは、Audio アバター機能の変更が導入されています。

音声アバターは、音声のみの参加者やビデオをミュートしている参加者に視覚的なプレゼンスを提供するために使用される静的画像です。このアバターは、名前ラベルを表示し、参加者が話しているタイミングを示す場所を提供します。以前は、このような参加者が複数ある場合、ライブ ビデオではなく、アバターを使用して画面を大量に取得できました。

このリリースでは、すべてのビデオ参加者が優先され、TelePresence Server はアバターの数を減らし（通常は 1 つだけ）、ビデオを使用する参加者が利用できる画面領域を最大化します。この動作はデフォルトで有効になっています。

また、1 つのオーディオアバターが別の音声アバターを優先して話すのを止めると、アバターの名前ラベルのみが変更されます。この動作はデフォルトで有効になっています。

以前の体験（テレプレゼンス サーバ 4.3、4.2、4.1 での体験）を優先して、ビデオ参加者にとって同じ重要度でオーディオアバターが処理される場合は、API を使用して会議の動作を設定できます。

1. **TelePresence Conductor** で、**[会議構成 (Coference Configuration)]** > **[会議のテンプレート (Conference Templates)]** に移動し、会議のテンプレートを見つけます。
2. **[高度なパラメータ (Advanced Parameters)]** に移動し、**[編集 (Edit)]** をクリックします。
3. **[カスタムパラメータ (Custom parameters)]** テキスト ボックスに、次のテキストを入力します。

```
{"displayAudioAvatarMode": "all"}
```
4. **[保存 (Save)]** をクリックします。

変更およびマイナーな機能強化

バージョン 4.4 (1.20) では、次の変更が導入されています。

廃止される機能に関する事前告知

3DES および IDEA 暗号が削除されました

セキュリティのベスト プラクティスと安全性の低い暗号化標準の廃止に合わせて、残りのすべての 3DES および IDEA 暗号のサポートは、このリリースで削除されました。

ECDHE 暗号方式の追加

使用可能なセキュア アルゴリズムの範囲を広げるために、ECDHE 暗号が追加されました。

仮想マシンのユーザ インターフェイス変更に関する Cisco TelePresence Server

vTS ユーザ インターフェイスの [起動時にシリアル コンソール入力を無効にする (Disable serial console input during startup)] チェックボックスが削除されました。

マルチストリームのデフォルト設定に変更

バージョン 4.4 (1.16) では、マルチストリームのデフォルト設定が変更されました。マルチストリームのサポートはデフォルトでオフになり、以前はデフォルトでオンになっていました。

API を使用して会議のマルチストリーム モードを [オン] に設定するには、次の手順を実行します。

1. **TelePresence Conductor** で、**[会議構成 (Conference Configuration)]** > **[会議のテンプレート (Conference Templates)]** に移動し、会議のテンプレートを見つけます。
2. **[高度なパラメータ (Advanced Parameters)]** に移動し、**[編集 (Edit)]** をクリックします。
3. **[カスタム パラメータ (Custom parameters)]** テキストボックスで、次のテキストを入力します。
`{"callAttributes":{"multistreamMode":"multistreamOn"}}`
4. **[保存 (Save)]** をクリックします。

非推奨の事前通知

TelePresence Server 4.4 (1.20) は、MSE 8710 プラットフォームをサポートする最終リリースとなります。

解決済みおよび未解決の問題

解決済みの問題

以前のリリースで見られ、4.4 (1.30) で修正された問題 :

[https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283613665&rls=4.4\(1.30\)&sb=fr&bt=custV](https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283613665&rls=4.4(1.30)&sb=fr&bt=custV)

未解決の問題

https://bst.cloudapps.cisco.com/bugsearch/search?kw=*&pf=prdNm&pfVal=283613665&sb=afr&sts=open&svr=5nH&bt=empCustV

プラットフォーム ライセンスの比較

プラットフォーム ライセンスの比較

次の表は、各プラットフォームが受け入れ可能な TelePresence Server 画面ライセンスの数と、それらが会議容量に変換する方法を比較しています。

注：これらは TelePresence Conductor を使用した設定で推奨される組み合わせです。他の組み合わせは可能ですが、より多くの予想コストがかかる可能性があります。詳細については、

http://docwiki.cisco.com/wiki/Advanced_Resource_Optimization_on_TelePresence_Server を参照してください。

表 4 コール タイプ別の 1 コールあたりの TelePresence Server スクリーン ライセンス

| コール タイプの説明 | | | コールあたりに必要なスクリーン ライセンス |
|---------------------|----------|----------|-----------------------|
| メイン ビデオ | 音声 | 内容 | |
| - | モノ | - | 1/52 |
| 360p30 [†] | モノ | メイン ビデオ内 | 1/8 |
| 360p30 [†] | ステレオ | 720p5 | 1/4 |
| 480p30 | ステレオ | メイン ビデオ内 | 1/4 |
| 480p30 | ステレオ | 720p5 | 1/3 |
| 720p30 | ステレオ | 720p5 | 1/2 |
| 720p30 | ステレオ | 720p30 | 1 |
| 1080p30 | ステレオ | 720p15 | 1 |
| 720p60 | ステレオ | 720p15 | 1 |
| 1080p30 | ステレオ | 720p30 | 1½ |
| 3 画面 720p30 | マルチチャンネル | 720p5 | 1½ |
| 3 画面 720p30 | マルチチャンネル | 720p30 | 2 |
| 1080p30 | ステレオ | 1080p30 | 2 |
| 2 画面 1080p30 | ステレオ | 720p30 | 2 |
| 3 画面 1080p | マルチチャンネル | 720p30 | 3 |
| 3 画面 1080p | マルチチャンネル | 1080p30 | 4 |
| 4 画面 1080p | ステレオ | 1080p30 | 4 |

[†] TelePresence Conductor XC2.2 以降が必要です。

制限

表 5 現在の製品のさまざまなプラットフォームでの TelePresence Server の会議容量

| コールあたりに必要なスクリーンライセンス | ハードウェア タイプ別の最大コール数 (100% の容量を提供するライセンス) | | | | | | | | |
|----------------------|---|-----------------------|---------------|-----------------------|-------------------|---------------|-----------------------|----------------------|------------------------|
| | 8 コア VM (8 vCPU) | メディア 310 または MCU 5310 | 30 vCPU VM † | メディア 320 または MCU 5320 | アプライアンス 2 つのクラスター | メディア 820 | メディア 410v † (46 vCPU) | CMS 1000 † (70 vCPU) | メディア 820 の 2 ブレードクラスター |
| | 5 スクリーンライセンス | 6 スクリーンライセンス | 10 スクリーンライセンス | 12 スクリーンライセンス | 24 スクリーンライセンス | 30 スクリーンライセンス | 32 スクリーンライセンス | 42 スクリーンライセンス | 60 スクリーンライセンス |
| 1/52 | 200* | 200* | 200* | 200* | 200* | 200* | 200* | 200* | 200* |
| 1/8 | 41 | 49 | 81 | 97 | 195 | 200* | 200* | 200* | 200* |
| 1/4 | 20 | 24 | 40 | 48 | 97 | 120 | 128 | 168 | 200* |
| 1/3 | 15 | 18 | 30 | 36 | 73 | 90 | 96 | 126 | 180 |
| 1/2 | 10 | 12 | 20 | 24 | 48 | 60 | 64 | 84 | 120 |
| 1 | 5 | 6 | 10 | 12 | 24 | 30 | 32 | 42 | 60 |
| 1 1/2 | 3 | 4 | [6] | 8 | 16 | 20 | 21 | 28 | 40 |
| 2 | 2 | 3 | 5 | 6 | 12 | 15 | 16 | 21 | 30 |
| 3 | 1 | 2 | 3 | 4 | 8 | 10 | 10 | 18 | 20 |
| 4 | 1 | 1 | 2 | 3 | [6] | 7 | 8 | 10 | 15 |

* 200 は TelePresence Server での最大コール数です。Cisco TelePresence Conductor XC2.3 以降が必要です。

† コールの最大数を達成するには、仮想マシン上の Cisco TelePresence サーバが、マルチパーティ メディア 410v、CMS 1000、または 30 vCPU VM でホストされている唯一の VM である必要があります。他の UC アプリケーションとは共存できません (2.4 GHz 以上で実行される共存可能な 8 コアオプションとは異なります)。

注: 上記の表では、1 種類のコールを使用してこれらの最大値に到達することを想定しています。さまざまな同時発生コールに必要な総ライセンス数を計算するには、それぞれの同時発生コールに必要なスクリーンライセンスを合計します。

注: BE6K には 4.1 (1.79) 以降のキャパシティ変更はありません。

注: このテーブルは、現在の製品専用です。古い製品を含む包括的なリストについては、オンライン ヘルプの「ライセンス キャパシティ」の表を参照してください。

制限事項

一部の VM 操作の制限付きサポート

仮想マシン上での Cisco TelePresence Server のスナップショット作成は推奨されず、コールがアクティブでない場合や、VMware のベスト プラクティス ガイドラインに従っている場合にのみ実行する必要があります。Cisco では、自動スナップショット処理プロセスを点検して、仮想マシンの Cisco TelePresence Server で無効にすることを推奨します。

仮想マシン上の Cisco TelePresence Server のクローン作成はサポートされておらず、クローン化されたマシンには新しいライセンスが必要です。

制限

特に明記されていない限り、シスコはこのドキュメントと他の Cisco TelePresence Server on Virtual Machine ガイドで推奨されている VMware 機能のみをサポートします。

TIP/MUX をネゴシエートするエンドポイントのフロー制御が無効

TelePresence Server 4.0 以降、CTS エンドポイントとのコールではフロー制御要求は無効になっています。つまり、[受信したビデオ : ビデオ エラーのフロー制御 (Received video: flow control on video errors)] 設定は、これらのエンドポイントに対して有効になっている場合でも適用されません。

TelePresence Server が送信者側フロー制御をサポートしない

TelePresence Server が送信者側メディア フロー制御をサポートしない。これにより、受信側フロー制御をサポートしないエンドポイントに対して低帯域幅パイプを介してコールが行われる場合に問題が発生する可能性があります。このようなコールでは、TelePresence Server からエンドポイントへのメディアに対するフロー制御はできません。Id CSCun86953 を発行します。

コール転送が無効になる

TelePresence Server はコール転送をサポートしていません。

DTLS およびカスタム証明書

DTLS は、TIP エンドポイントと暗号化パラメータをネゴシエートするために使用されます。これには証明書を使用する必要があります。リリース 2.2 でサポートされているユーザ提供の証明書で DTLS を使用する場合、ユーザが指定した証明書がアップロードされた場合でも、常に DTLS ネゴシエーションに既定の証明書が使用されます。これは、技術的な制限が原因です。

CTS エンドポイントの HD品質インジケータ

CTS または IX5000 エンドポイントがロビー画面を表示すると、受信したビデオストリームの品質を誤って報告し続ける場合があります。エンドポイントが実際に 1080p ビデオを受信していて、品質インジケータに 5 つのバーが表示されるべきところ、720p ビデオ用の 4 つのバーが表示されることがあります。

クラスタリングの制限事項

Cisco TelePresence MSE 8000 シャーシの スロット 10 は、この TelePresence Server ソフトウェア リリースの 8710 ブレードのクラスタリングをサポートしていません。ただし、クラスタと同じシャーシ内の スロット 10 は、メディア 820 ブレードのクラスタリング、または任意の種類のス tand アロン ブレードに使用できます。

TIP コールと暗号化に必要な会議

TIP コールは、コール シグナリング パス全体で TLS 暗号化シグナリングが使用される場合、[暗号化 (Encryption)] 設定が [必須 (Required)] に設定されている会議にのみ参加できます。これにより、コールが完全にセキュアにされます。

TelePresence server が格納ファイル チャネルのモーションよりもシャープネスを優先する

TelePresence Server は、TelePresence Server ソフトウェア 4.1 以降の格納ファイル チャネルのモーションよりもシャープネスを優先します。詳細については、問題 ID CSCuy09938 を参照してください。

TelePresence server からの音声プロンプトが予期せず短くカットされる

オーディオ コーデックの変更時に再生中の TelePresence server からの音声プロンプトが、予期せず短くカットされることがあります。たとえば、リモート エンドポイントが更新された SDP を送信して、より優れたオーディオ コーデックを提供する場合などです。

これが一部の呼び出しに定期的に影響を与える場合は、影響を受けるエンドポイントで使用可能なオーディオ コーデックを 1 つのコーデックに制限して、TelePresence server がコーデックを変更できないようにすることをお勧めします。

相互運用性

相互運用性

この製品の相互運用性テスト結果は、<http://www.cisco.com/go/tp-interop> に掲載されています。ここでは、他の Cisco TelePresence 製品の相互運用性テスト結果も確認できます。

4.4 (1.30) へのアップグレード

4.4 (1.30) へのアップグレード

前提条件とソフトウェアの依存関係

注: 8710、7010、メディア 320、メディア 310、メディア 820 は、.kupgrade ファイルまたは .zupgrade ファイルを使用して標準としてアップグレードできます。アップグレードする前に、構成ファイルをバックアップしてください。

ソフトウェアの依存関係

- TelePresence Server MSE 8710 ブレードおよびメディア 820 の場合、Cisco テレプレゼンス スーパーバイザ MSE 8050 ブレードはスーパーバイザ ソフトウェア バージョン 2.2 以降を実行している必要があります。
- すべてのサードパーティ製ソフトウェア（ブラウザを含む）が TLS 1.2 をサポートしていることを確認します。そうでない場合は、アップグレード後に接続が失われます。アップグレード後に、Web ユーザーインターフェイスの [ネットワーク設定 (Network Settings)] ページの新しいドロップダウン オプションを使用して、サポートされている TLS の最小バージョンを変更できます。

表 6 他のソフトウェアでの TLS 1.2 のサポート

| その他のソフトウェアおよびブラウザ | 最小バージョン | TLS 1.2 サポート | 注 |
|--|---|--------------|---|
| Chrome | 30 | ○ | 以前は TLS 1.1 までの v30 のみがサポートされていました。 |
| Firefox | 27 | ○ | TLS 1.1 および 1.2 をデフォルトで有効にします。 |
| Internet Explorer | 11 | ○ | 2013 年 2 月からの TLS 1.2 のサポート。 |
| Opera | 17 | ○ | バージョン 10 ~ 12 で TLS 1.1 および 1.2 ですが、デフォルトでは無効になっています。バージョン 14 ~ 16 では TLS 1.1 がサポートされていましたが、1.2 はサポートされていません。 |
| Safari | iOS では 5、OS X では 7 | ○ | TLS 1.2 のサポート。 |
| Windows | Windows 7 および Windows Server 2008 R2 | ○ | TLS 1.1 および 1.2 のサポートは追加されましたが、デフォルトでは無効になっています。Windows 8.1 を投稿すると、既定で有効になります。 |
| Windows | OS 2003 | × | TLS 1.1 または 1.2 をサポートしません。 |
| Cisco TelePresence Management Suite | 15.3 Windows Server 2012 (または 2008 年の Windows レジストリで有効になっている関連する TLS 設定。) | ○ | |
| CTS (第 1 世代) | 1.10.16 | ○ | |
| Cisco TelePresence TX9000 シリーズ | TX 6.1.13 | ○ | |
| Cisco TelePresence IX5000 シリーズ | 8.2.1 | ○ | |
| Cisco TelePresence Video Communication Server (Expressway) | X8.10 | ○ | |
| Cisco TelePresence Conductor | XC4.3.1 | ○ | |

4.4 (1.30) へのアップグレード

前提条件

ソフトウェアのアップグレード プロセスでは、ハードウェアの再起動が必要です。ダウンタイム ウィンドウをスケジュールし、サービスが利用できなくなる時期をユーザに通知します。アップグレードの期間は最大 25 分です。ソフトウェアのアップグレードに進む前に、以下のバックアップ プロセスを使用可能にして完了してください。

- ソフトウェア パッケージ。
 - ハードウェア プラットフォームの場合、これは **.zip** 拡張子の付いたファイルになります。たとえば、メディア 310/320 プラットフォームであれば **cisco_ts_media_300_4.4_1.30.zip** です。このファイルを使用する前に、このファイルを解凍する必要があります。
 - 仮想マシン プラットフォームの場合、初期インストール ファイルには **.ova** 拡張子が付いていますが、アップグレード パッケージには **.tar.xz** が付いています。たとえば、Cisco_tsVirtualMachine_4.4_1.30.ova や Cisco_tsVirtualMachine_4.4_1.30.tar.xz です。これらのパッケージを使用する前に解凍する必要はありません。
- 現在のソフトウェア イメージ ファイル (アップグレードを元に戻す必要がある場合)。
- コンフィギュレーションのバックアップ (**configuration.xml** ファイル)。
- バックアップを使用する必要がある場合は、構成バックアップ ファイルの管理者ユーザ名とパスワードが必要です。ソフトウェアをダウングレードまたは復元しようとして適切な構成ファイルをロードできない場合は、デバイスにログインできない可能性があります。
- 通話詳細レコード (CDR) やその他のログを使用する場合は、課金、監査、またはその他の目的で、ログに記録されたデータをダウンロードして保存する必要があります。アップグレードの一環としてデバイスを再起動すると、既存のすべての CDR が削除されます。
- アップグレードするすべてのユニットへの管理アクセス。
- デバイスのモデル番号とシリアル番号 (Cisco テクニカルサポートに連絡する必要がある場合)。

注意： アップグレードを開始する前に、このセクションで説明するすべてのバックアップ プロセスが完了していることを確認してください。そうしないと、データが失われる可能性があります。

注意： クラスタをアップグレードする場合は、クラスタのすべてのメンバを同じソフトウェア バージョンにアップグレードする必要があります。

注： クラスタをアップグレードしている間、または別の理由でクラスタを再始動している間、スレーブの再始動をするまでは、マスターがクラスタの全容量を報告できません。このような情報をマスターにポーリングするデバイスは、容量が永続的に削減されたと仮定する前に、スレーブがバックアップされていることを確認する必要があります。

設定のバックアップ

1. Web ブラウザで、デバイスの Web インターフェイスに移動します。
2. 管理者としてログインします。
3. [設定 (Configuration)] > [アップグレード (Upgrade)] に移動します。
4. [バックアップと復元 (Back up and restore)] セクションで、[バックアップファイルの保存 (Save backup file)] をクリックします。
5. その結果の **configuration.xml** ファイルを安全な場所にコピーします。

注意： バックアップを使用する必要がある場合は、設定バックアップ ファイルの管理者ユーザ名とパスワードを覚えておく必要があります。

Cisco TelePresence Server on Virtual Machine での 4.4 (1.30) の使用

注： このセクションは、ハードウェア プラットフォーム TelePresence Server をアップグレードする場合には適用されません。

注： バージョン 4.3 を 4.4 に通常通りアップグレードすることができます。ただし、4.2 以前から 4.3 以降にアップグレードする場合は、仮想マシン上の Cisco TelePresence Server を再展開する必要があります。詳細については、次のサイトの「仮想マシン 4.3 の TelePresence server への移行」を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/telepresence-server/products-installation-guides-list.html>

4.4 (1.30) へのアップグレード

仮想マシン上の Cisco TelePresence server のアップグレード プロセスは、ハードウェアプラットフォームのアップグレード プロセスとよく似ていますが、若干の違いがあります。項目が仮想マシンプラットフォームから明示的に除外されていない限り、[すべての前提条件とソフトウェアの依存関係 \(11 ページ\)](#) に準拠する必要があります。

Cisco TelePresence Server on Virtual Machine のアップグレード ファイルの拡張子は **.tar.xz** であることに注意してください。

アップグレード手順

1. Web ブラウザで、デバイスの Web インターフェイスに移動します。
2. 管理者としてログインし、必要に応じて新しいパスワードを設定します。ユーザ名 : *admin*
3. [設定 (Configuration)] > [アップグレード (Upgrade)] に移動します。
4. [メイン ソフトウェア イメージ (Main software image)] セクションで、[新しいイメージ ファイル (New image file)] フィールドを見つけます。新しいイメージ ファイルを参照して選択します。
5. [ソフトウェア イメージのアップロード (Upload software image)] をクリックします。
Web ブラウザからファイルがデバイスにアップロードされます。アップロードには数分かかることがあります。
注 : アップグレード **アップグレード** ページから移動したり、ページを更新したりしないでください。アップロードが失敗する原因となります。
ポップアップ ウィンドウにアップロードの進捗状況が表示されます。完了したら、メッセージを閉じます。Web ブラウザが自動的に更新され、**メイン イメージのアップロードが完了しました (Main image upload completed)** というメッセージが表示されます。
6. [TelePresence Server をシャットダウンする (Shut down TelePresence Server)] をクリック **します**。
このオプションは、まもなく [TelePresence Server のシャットダウンの確認 (Confirm TelePresence Server shutdown)] に変わります。クリックして確定します。
7. [TelePresence Server の再起動とアップグレード (Restart TelePresence Server and upgrade)] をクリックします。
ユニットを再起動し、アップグレードします。これには最大 25 分ほどかかる場合があります。
注 : アクティブでない時間が続いたため、ログアウトしている可能性があります。この場合は、再度ログインし、**[設定 (Configuration)] > [シャットダウン (Shutdown)] に移動して、**
[TelePresence Server の再起動とアップグレード (Restart TelePresence Server and upgrade)] をクリックします。
8. [ステータス (Status)] ページに移動して、デバイスが新しいバージョンを使用していることを確認します。
9. 必要に応じて、構成を復元します。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ダウングレードの手順

アップグレードを逆にする必要がある場合は、以前のバージョンのソフトウェアを再インストールすることができます。ダウングレード手順は、以前のソフトウェア イメージを使用する点を除いて、アップグレード手順と同じです。

注 : ダウングレードを開始する前に、[「前提条件 \(12 ページ\)」](#) で説明されている関連バックアップ プロセスがすべて完了していることを確認してください。そうしないと、データが失われる可能性があります。

注 : メディア 310 およびメディア 320 プラットフォームでダウングレードする前に、カスタム証明書を削除し、ダウングレード後に証明書を再アップロードすることをお勧めします。

注 : 通常は 4.3 にダウングレードできます。ただし、4.2 以前にダウングレードするには、再展開が必要です。以前にそのバージョンを展開していた場合は、「仮想マシンの Cisco TelePresence Server で 4.4 を使用する」の「仮想マシンインストールガイドの Cisco TelePresence Server」の説明に従って、4.4 を実行しているサーバをオフにした後、その仮想マシンを再びオンにすることができます。

4.4 (1.30) からのダウングレード

続行する前に、ソフトウェアの正しいターゲット バージョンと対応する格納済みの構成が必要です。

1. 以前のソフトウェア イメージを使用して、アップグレード手順に従います。
2. ハードウェアを再起動し、Web インターフェイスを使用してステータスを確認します。
進捗レポートには、ソフトウェアのバージョンが表示されます。
3. 保存した XML ファイルから構成を復元します。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

Bug Search Tool の使用

Bug Search Tool には、問題の説明と利用可能な解決策など、このリリースおよび以前のリリースの未解決の問題と解決済みの問題に関する情報があります。これらのリリース ノートに示されている ID によって、それぞれの問題の説明に直接移動できます。

このマニュアルに記載された問題に関する情報を検索するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザを使用して、[Bug Search Tool](#) に移動します。
2. cisco.com のユーザ名とパスワードでログインします。
3. **[検索 (Search)]** フィールドにバグ ID を入力し、**[検索**

(Search)] をクリックします。ID がわからない場合に情報を検索

するには、次の手順を実行します。

1. **[検索 (Search)]** フィールドに製品名を入力し、**[検索 (Search)]** をクリックします。
2. 表示されるバグ リストの [フィルタ (Filter)] ドロップダウン リストを使用して、[キーワード (Keyword)]、[変更日 (Modified Date)]、[重大度 (Severity)]、[ステータス (Status)]、または [技術 (Technology)] のいずれかでフィルタ処理します。

Bug Search Tool のホームページで **[詳細検索 (Advanced Search)]** を使用して、特定のソフトウェア バージョンを検索します。Bug Search Tool のヘルプ ページには、Bug Search Tool の使用に関する詳細情報があります。

マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート

電子メールまたは RSS フィードで送信される柔軟な通知アラートをカスタマイズするには、[シスコ通知サービス](#)をご利用ください。

ドキュメントの入手、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用、サービス要求の送信、追加情報の収集の詳細については、『[What's New in Cisco Product Documentation](#)』を参照してください。

シスコの新しい技術情報や改訂された技術情報を直接デスクトップで受信することをご希望の場合は、[What's New in Cisco Product Documentation RSS feed](#) にご登録ください。RSS フィードは無料のサービスです。

マニュアルの変更履歴

表 7 TelePresence Server リリース ノート改訂版

| 日付 | 説明 |
|-------------|-----------------------------------|
| 2019 年 11 月 | バージョン 4.4 (1.30) 6 番目のメンテナンス リリース |
| 2019 年 6 月 | バージョン 4.4 (1.29) 5 番目のメンテナンス リリース |
| 2018 年 11 月 | バージョン 4.4 (1.28) 4 番目のメンテナンス リリース |
| 2018 年 3 月 | バージョン 4.4 (1.24) 3 番目のメンテナンス リリース |
| 2018 年 1 月 | バージョン 4.4 (1.20) |
| 2017 年 10 月 | バージョン 4.4 (1.20) 2 番目のメンテナンス リリース |
| 2016 年 12 月 | バージョン 4.4 (1.16) 最初のメンテナンス リリース |
| 2016 年 8 月 | バージョン 4.4 (1.9) ファーストリリース |



シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報と推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが導入する TCP ヘッダー圧縮は、カリフォルニア大学バークレー校 (UCB) により、UNIX オペレーティングシステムの UCB パブリック ドメイン バージョンの一部として開発されたプログラムを適応したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルとソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスと電話番号は、実際のアドレスと電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図とその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2019 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

Cisco およびシスコ ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコの商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。記載されている第三者機関の商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)

